

図 26 24 時間体制（休日等の相談時間延長）の見直し予定有無

### (3) 回線数

回線数については、「変更予定」が 5 県（11%）、「変更予定なし」が 41 県（87%）、「未定」が 1 県（2%）であった（図 27）。

#### ● 「変更予定」へのコメント

- ・ 平成 24 年度から 2 回線（現行は 1 回線）
- ・ 混雑する時間帯（19 時～23 時）に限り 2 回線に変更予定
- ・ 平成 24 年度より 18 時～22 時のみ 2 回線に増設を検討
- ・ 平成 24 年度から 11 月～3 月までの間は 2 回線に増。それ以外の月はこれまでどおり 1 回線

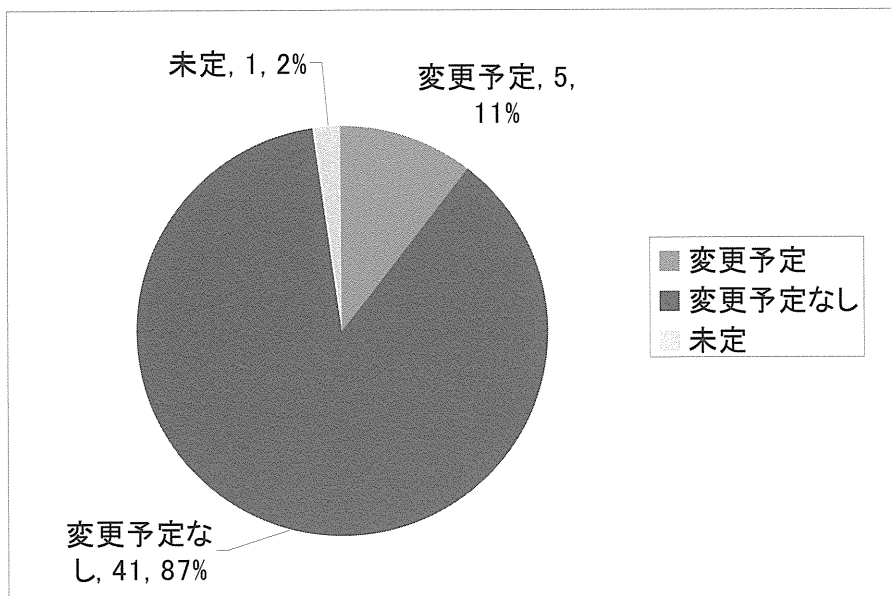


図 27 回線数の見直し予定有無

#### (4) 複数県の連携

複数県の連携については、「予定あり」が1県(2%)、「予定なし」が46県(98%)であった(図28)。

- 「予定あり」へのコメント
  - ・ 関西広域連合において今後検討する可能性あり
- 「予定なし」へのコメント
  - ・ 予定はないが、他県等から相談があれば考慮したい

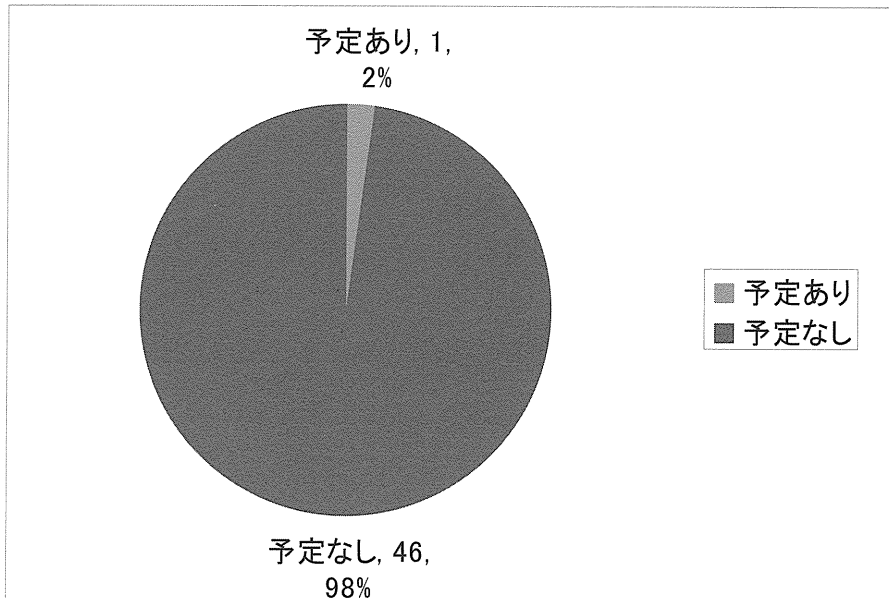


図28 複数県の連携予定有無

【問12】 「全国情報センター」(仮称) の設置について

(1) 設置主体はどこが適切か

設置主体については、「国」が44県(94%)、「その他」が1県(2%)、「未記入」が2県(4%)であった(図29)。

- 「国」へのコメント
  - ・ 平成23年度は、相談員の研修を県が実施した
  - ・ 国が直接運営すべきと考える
  - ・ 「全国情報センター」の果たす役割や事業内容が明確にされたうえで再度判断することとしたい
  
- 「その他」へのコメント
  - ・ 必要性を含め、議論が必要

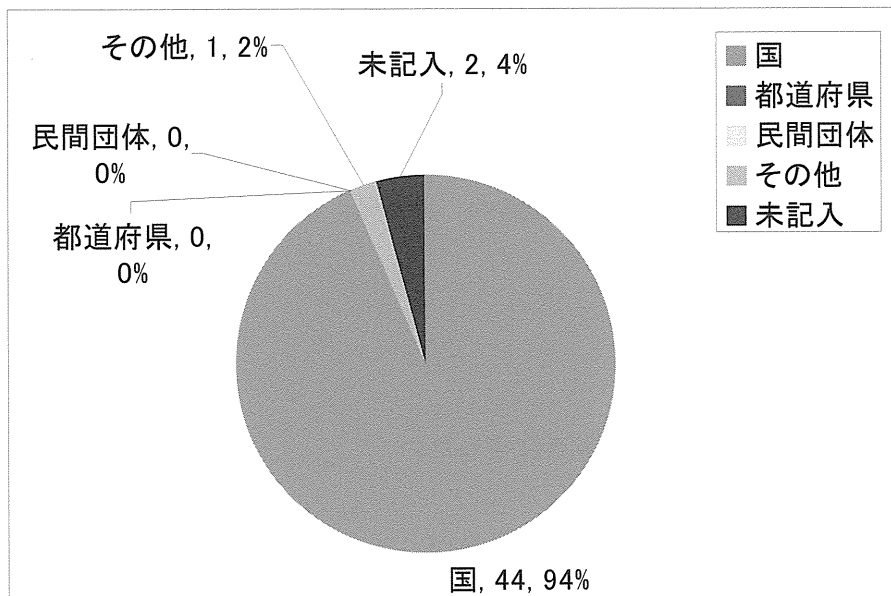


図29 設置主体はどこが適切か

(2) 運営経費はどこが負担すべきか

運営経費については、「国」が43県(92%)、「国及び県」「その他」が各1県(2%)、「未記入」が2県(4%)であった(図30)。

- 「国」へのコメント
  - ・ 国が負担すべきと考える
  
- 「その他」へのコメント
  - ・ 必要性を含め、議論が必要

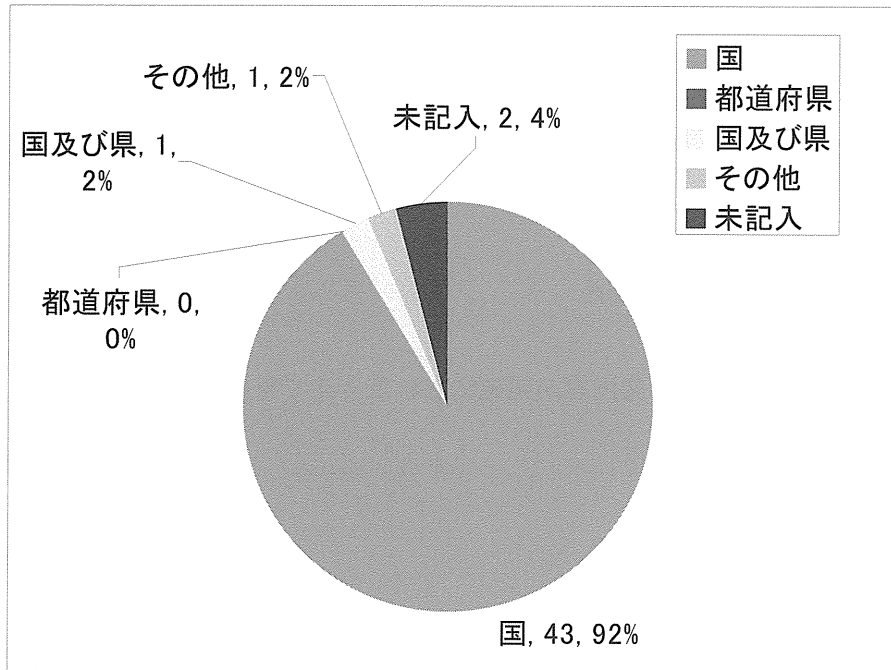


図 30 運営経費はどこが負担すべきか

(3) 設置場所はどこが負担すべきか

設置場所については、「国立施設内」が 33 県、「民間施設内」が 3 県、「NPO」が 1 県、「その他」が 9 県、「未記入」が 2 県であった（図 31）。

● 「その他」へのコメント

- ・ 必要性を含め、議論が必要
- ・ 設置主体は国が妥当と考えているため、国の判断に委ねたい
- ・ 設置場所は問わない
- ・ 的確に事業を遂行できれば、どの場所に設置されても良い
- ・ 設置主体による
- ・ 設置場所はどこでも構わない。特に限る必要はない
- ・ 不明

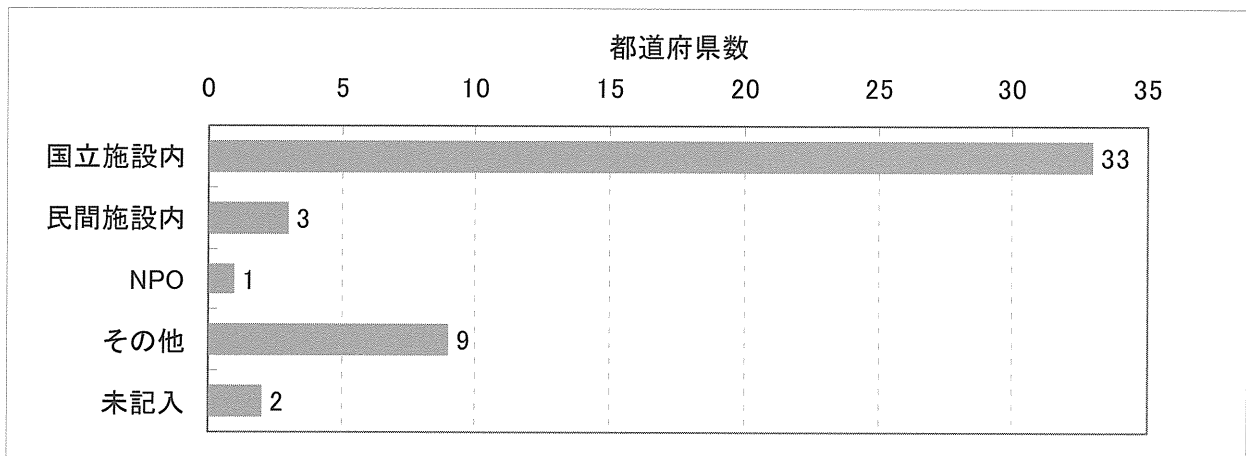


図 31 設置場所はどこが適切か ※複数回答あり



(4) その他意見

- ・ 相談員の研修が主な業務になるのであれば、本県は民間委託しているのでセンターの必要性は感じていない。相談事例や問題事例、事業遂行に有効な情報等を情報収集し、ホームページで閲覧できるような業務を行うのであれば、設置もよいのでは
- ・ 事業そのものの一元化を図ることが先決ではないかと考える
- ・ 全国 47 の都道府県で実施している以上、国主導によるセンターの設置、運用の方が、経費、開設時間等において現行より有効な事業になるものと考え
- ・ 現在のところ必要性が感じられない
- ・ 相談員が相談者への回答が本当に適切だったかどうか悩むことがあり、相談情報を蓄積し、情報を提供してくれる仕組みがあれば、相談員の不安解消につながる

【問13】 #8000 ウェブサイトの必要性について

#8000 ウェブサイトの必要性については、「必要と思う」が 32 県 (68%)、「不要と思う」が 1 県 (2%)、「不明」が 13 県 (28%)、「未記入」が 1 県 (2%) であった (図 32)。

● 「必要と思う」へのコメント

- ・ 本県では小児救急ガイドブックを映像化した DVD を作成し、関係機関への配布や県 HP での公開を行っているが、日頃から救急時の対応について HP 上で確認していただくことは必要であると考え

● 「不明」「未記入」へのコメント

- ・ #8000 ウェブサイトの趣旨が不明だが、日本小児科学会で開設する「こどもの救急」のようなものであれば、あると便利ではないか。<http://kodomo-qq.jp/>
- ・ ウェブサイトの内容による
- ・ 受診すべきか否かの目安をのせる程度であれば、日本小児科学会 HP などで充分足りている

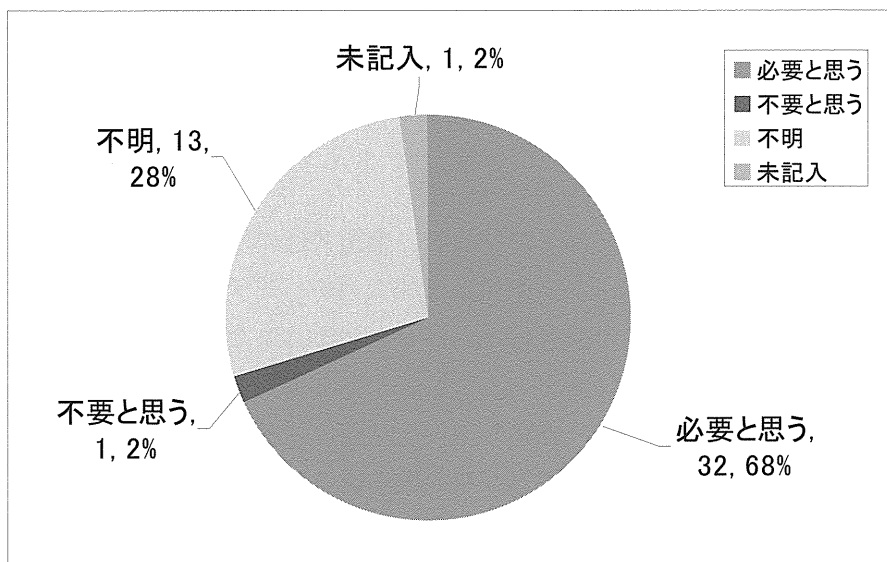


図 32 #8000 ウェブサイトの必要性について

【問14】 その他意見欄

- ・ 全都道府県で実施されているので、将来的には全国で相談時間等が統一されるのが望ましい。都道府県ごとに運営方法（直営、委託）が違うのも効率的ではないので、全国の相談電話に対応するコールセンター等の設置を今後検討していくべきと考える
- ・ 全都道府県が事業を実施しており、全国どこでも同じサービスが受けられるように、当該事業は国が実施すべきと考える。国一本化によるスケールメリットも期待できる
- ・ 国の事業として実施すべきと考える（全国に1か所又は数か所「相談対応センター」を設置して運営する方法）
- ・ 現状として、他県住民から相談されることもあり、相談・指導は地域による差はないので、国の事業として広報をしっかりと行い、全国一元で実施すべきである。「全国情報センター」で質の向上や均てんを図る必要もなくなる
- ・ 深夜帯も含めた24時間相談可能な体制への移行を検討する必要がある。その際、深夜帯における運用については、相談件数も少ないことから、広域化による運用体制（例えば全国、各ブロック単位など）を検討してはどうか
- ・ 相談員である小児科医師の高齢化に伴う対応が今後必要と考える。
- ・ 他の相談事業（救急安心センター）との役割分担や連携のあり方について検討が必要
- ・ 時間延長や回線数増を実施するには、国庫補助金の更なる増額が必要
- ・ 深夜帯での実施や、複数回線化などさらなる充実が求められるなかで、補助事業による財政支援の拡充をお願いしたい
- ・ 相談員の確保が喫緊の課題であり、安定的に相談員を確保するための仕組みが必要である
- ・ 全国47都道府県で実施されるようになったが、医師会や小児科医会、民間会社など、様々な団体への委託によって実施しているため、相談者への対応についても、千差万別であると思われる。各県で相談対応に格差が生じないように、統一した対応マニュアルの策定が望まれる
- ・ 全国で行われている業務であるのに、各都道府県で個々に契約しているため、予算額にかなり差がある。一括して国で行う方が、予算も抑えられ効率的である
- ・ 地域差なく、24時間いつでも、どこからでも、話し中なくスムーズにつながる、しかも相談の質を担保した体制を構築するには、単県での運営では限界があります。例えば、国が運営（委託を含む）し、各県は按分費用（例えば小児人口等）の負担や情報提供（更新）を行うという体制をとっていただくというようなことはできないでしょうか
- ・ 相談員のためのQ&Aデータベースサイトの開設をお願いします
- ・ 相談員の研修について、県看護協会が独自で実施はしているが、全国共通の研修会の充実をお願いしたい。他県の#8000相談員同士の交流の機会があれば、情報交換や、モチベーションの向上につながり、より質の高い相談業務が実施できるのではないかと考える。また、県独自でテレビCM等のPRを実施しているが、全国的なPRをし、周知していくことも必要だと考える
- ・ 増え続ける小児救急搬送には有効と思われるため、継続していく意義は非常に高いと思われる。また今後は、大人や高齢者を含めた電話相談体制の構築が救急搬送数の増加を食い止める有効な施策になるとと思われるため、コストを抑えつつ実施していく必要があると思われる

---

### 3 参考文献

---

平成 22 年国勢調査人口等基本集計 「第 3-1 表 年齢(各歳), 男女別人口, 年齢別割合, 平均年齢及び年齢中位数(総数及び日本人) - 全国※, 都道府県※」

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001034991&cycode=0>

総務省統計局、2011 年 1 月 26 日参照

小児救急医療電話相談（#8000）に係る実施状況調査（回答）

全国衛生部長会

【別紙1】

広島県医療政策課宛（e-mail fuiryu@pref.hiroshima.lg.jp）

都道府県名	
担当部署	
担当者氏名	
連絡先tel	

※ 記入例を参考に、「紫色」の欄に回答してください。

調査項目	回答欄			
	番号欄	記載欄		
問1 事業開始年度	—		年度	
問2 実施方法 1 県直営 2 委託 3 直営及び委託		—		
問3 委託（直営及び委託を含む）の場合の委託先 種別⇒番号欄，委託先⇒記載欄 1 医師会，2 看護協会，3 民間電話会社， 4 その他				
問4 相談体制について				
(1) 回線数	—		回線	
(2) 年間の実施予定日数	—		日	
(3) 相談時間帯及び相談者の職種 職種の記載例：医師，看護師，保健師， 保育士，小児救急専門看護師，その他	—	時間帯		職種
平日	—	時	～	時
土曜日	—	時	～	時
日・祝日（年末年始）	—	時	～	時
(4) 相談員等報酬 （単位：円/月額・日額，時間単価区分）	—	職種	単価区分	報酬額
	—			円
	—			円
	—			円
(5) 相談員の募集方法 1 県公募，2 医師会募集，3 看護協会募集， 4 ハローワーク，5 その他 ※「5」の場合は記載欄にその方法を記入	—	職種	募集方法	

調査項目	回答欄							
	番号欄	記載欄						
問5 相談件数								
—	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
(1)平成22年度相談等件数 ・平成22年度の月別相談件数 ・平成22年度の月別話中(busy)件数 ⇒把握している場合	相談件数							
	話中件数							
	月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	相談件数						0件	
	話中件数						0件	
(2)平成23年度の相談件数 (震災後の変化)	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	相談件数							0件
(3)相談件数の年次推移 ・平成20～22年度の年間相談件数	年度	20	21	22	合計			
	相談件数				0件			
問6 運営委員会(仮称)について								
(1)運営委員会の有無 1 有, 2 無		—						
(2)「有」の場合, 開催回数(年間予定)	—			回				
(3)構成員及び人数 回答例:行政, 医師会, 看護協会, 市民代表, ボランティア など	—							
問7 広報								
・県民への広報・周知の方法(複数回答可) 回答例:県の広報誌, ホームページ, ラジオ, テレビ, など	—							
問8 運営経費								
(1)平成23年度予算額	—			千円				
(2)うち委託料分(医師会, 民間事業者等)	—			千円				
問9 小児医療体制との連携等								
(1)当日対応できる医療機関情報の把握 1 救急医療ネット等で検索 2 医師会から定期的に情報提供 3 相談員が相談開始前に医師会等に確認 4 その他⇒記載欄に記入								



調査項目	回答欄	
	番号欄	記載欄
問10 事業効果について		
(1)保護者の不安解消 1 保護者の不安解消に効果あり 2 保護者の不安解消に効果なし 3 不明		—
(2)小児救急医療現場の負担軽減 1 負担軽減に効果あり 2 負担軽減に効果あり 3 不明		—
(3)検証方法(「効果の有無」を判断した根拠) ※ 複数回答可 1 県民へのアンケート調査 2 医療機関への調査 3 相談員の意見や聞取調査 4 その他⇒記載欄に記入		
(4)事業効果判定を行った資料があれば別途御恵与 いただきたい。 1 有 , 2 無		【「1有」の場合】別紙のとおり
問11 今後の#8000の見直し予定について		
(1)深夜相談時間帯 1 変更予定⇒変更内容を記載欄に記入 2 変更予定なし		
(2)24時間体制(休日等の相談時間延長) 1 変更予定⇒変更内容を記載欄に記入 2 変更予定なし		
(3)回線数 1 変更予定⇒変更内容を記載欄に記入 2 変更予定なし		
(4)複数県の連携 1 予定あり⇒変更内容を記載欄に記入 2 予定なし		
問12 「全国情報センター」(仮称)の設置について ※「全国情報センター」(仮称): 相談員の研修, 情報収集, 情報還元のための組織		
(1)設置主体はどこが適切か 1 国 2 都道府県 3 民間団体 4 その他 ※ その他の場合は記載欄に記入		
(2)運営経費はどこが負担すべきか 1 国 2 都道府県 3 国及び県 4 その他 ※ その他の場合は記載欄に記入		
(3)設置場所はどこが適切か 1 国立施設内 2 民間施設内 3 NPO 4 その他 ※ その他の場合は記載欄に記入		
(4)その他意見		
問13 #8000ウェブサイトの必要性について		
1 必要と思う。 2 不要と思う。 3 不明 ※ 特段の理由があれば理由を記載欄に記入		

問14 その他意見欄

#8000の今後のあり方など、意見がございましたら、  
ご記入ください。

—

## #8000の深夜帯ニーズ及び満足度調査結果について

### 福島県

平成22年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業  
「小児救急電話相談の実施体制および相談対応の充実に関する研究」班

2010年12月28日(火)  
ダイヤル・サービス株式会社



#8000深夜帯ニーズ アンケート調査

対象期間:2010年7月30日(金)22時～8月31日(火)24時 対象時間:22時～翌朝8時		総相談受付実績	アンケート回答 総合計
総合計		256	52
(1)曜日	月	38	6
	火	29	7
	水	43	11
	木	28	5
	金	33	6
	土	38	10
	日	47	7
(2)入電時間	22時-23時	57	25
	23-24時	29	5
	24時-1時	40	8
	1時-2時	25	3
	2時-3時	18	3
	3時-4時	16	1
	4時-5時	12	0
	5時-6時	9	1
(3)相談分数	6時-7時	22	5
	7時-8時	28	1
	0～5分未満	80	1
	5～10分未満	129	32
	10～15分未満	43	18
	15～20分未満	3	1
(4)相談対象者年齢	20～30分未満	1	0
	30分以上	0	0
	1歳未満	75	13
	1～2歳未満	62	16
	2～3歳未満	40	8
	3～4歳未満	20	6
	4～5歳未満	16	2
	5～6歳未満	17	4
	小学生(6～12歳)	22	3
	中学生(13～15歳)	2	0
(5)相談対象者性別	その他	2	0
	男	141	21
	女	114	31
(6)相談者性別	不明	1	0
	男	32	9
	女	224	43
(7)相談者年齢	不明	0	0
	20歳未満	0	0
	20代	68	14
	30代	174	35
	40代	11	2
	50代	1	0
	60代以上	2	1
(8)相談者続柄	不明	0	0
	父	32	9
	母	219	42
	祖父母	2	1
(9)相談内容	その他	3	0
	救急医療相談		4
	くすりの相談		0
	一般の病気の相談		48
	育児・しつけ		0
(10)分類(症状別)	その他		0
	発熱		26
	腹痛		1
	頭部打撲		2
	耳鼻科関連		2
	咳嗽・喘鳴		2
	けいれん		0
	外傷・刺傷		2
	眼科関連		1
	嘔吐		6
	発疹		5
	誤飲誤食		1
	歯科口腔		0
	下痢		0
	熱傷		0
	予防接種		1
(11)回答内容(対応)	その他		3
	119番をすすめた		0
	直ぐに医療機関を勧めた		3
	翌日の医療機関を勧めた		29
一般的な保健指導・育児相談		20	
その他		0	

<福島県>

◀2010年7月▶						
日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

◀2010年8月▶						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

#8000深夜帯ニーズおよび満足度調査 アンケート項目集計一覧

<福島県>

<b>1)アドバイス通り手当てをしたか?</b> 52		<b>1)-1 手当てをしたあと症状は落ち着いたか?</b> 49	
94%	1)-1: 手当てをした 49	1)-1-1 落ち着いた 41	
6%	1)-9: 手当てをしない 3	1)-1-2 落ち着いたかなかった 8	※「落ち着いたかなかった」内、症状が重くなった:3件
<b>2)相談後病院で受診したか?</b> 52		<b>1)-9 アドバイス通り手当てをしなかった理由</b> 3	
71%	2)-1: 受診した 37	1)-9-1 良くなり不要 1	
0%	2)-2: これから受診する予定	1)-9-2 病院にすぐ行った 1	
29%	2)-9: 受診しない 15	1)-9-3 その他 1	
		<b>2)-1「相談後病院で受診した」の詳細</b> 37	
		2)-1-1: 案内された病院で受診した 34	
		2)-1-2: 案内された病院ではなく、自分で探した 3	
		2)-1-3: 案内されなかったので自分で探した 0	
		<b>2)-2「相談後病院で受診した」時期は?</b> 37	
		2)-2-1: 相談当日 14	
		2)-2-2: 相談翌日 21	
		2)-2-3: 相談2日後 1	
		2)-2-4: 相談3日後 1	
		2)-2-5: 相談4日後以降	
		<b>2)-3「相談後病院で受診した」後の症状は?</b> 37	
		2)-3-1: 良くなった 33	
		2)-3-2: 良くなるしない 4	
		2)-3-3: 悪くなった 0	
		2)-3-4: 良くなったが念のため受診	
		<b>2)-9 受診しなかった理由</b> 15	
		2)-9-1: 良くなったから案内された病院で受診しなかった 14	
		2)-9-2: 案内された病院で受診したかったができなかった	
		2)-9-3: 案内されたがしばらく様子を見る事にした 1	
		2)-9-4: 必要を感じなかったので案内してもらわなかった	
<b>3)#8000に相談できて良かった?</b> 52		<b>4)#8000が無かったら119番又は救急病院受診」回答者</b>	
100%	3)-1: YES 52	における、相談時の対応内容 32	
0%	3)-2: NO 0	4)-1: 119番案内 0	
<b>4)#8000が無かったらどうした?</b> 52		4)-2: すぐに医療機関案内 3	
8%	4)-1 119番に電話 4	4)-3: 翌日の医療機関案内 18	
54%	4)-2 救急病院に受診 28	4)-4: 一般的保健指導 11	
23%	4)-3 朝まで様子を見た 12	4)-5: その他 0	
2%	4)-4 家族知人等に相談 1	<b>5)-1 受付時間へのコメント</b> 7	
6%	4)-5 インターネットで調べる 3	深夜に相談できてよかった 5	
6%	6)-6 医療機関に電話 3	24時間対応を希望 2	
2%	4)-5 医療機関で受診 1	昼間対応を希望 0	
0%	4)-6 消防に相談 0	対応時間の正しい周知を希望 0	
0%	4)-7 その他 0	その他 0	
<b>5)その他#8000へのコメントなど</b> 52		<b>5)-2 混み具合へのコメント</b> 1	
13%	5)-1 受付時間 7	繋がりにくかった 1	
2%	5)-2 混み具合 1	すぐに繋がった 0	
29%	5)-3 相談員の態度、対応 15	<b>5)-3 相談員の態度、対応</b> 15	
6%	5)-4 アドバイスの内容 3	満足 11	
2%	5)-5 病院の受付体制 1	一部不満 3	
0%	5)-6 病院案内 0	不満 1	
48%	5)-7 その他 25		

平成22年度県政インターネットモニターアンケート調査  
〔救急医療についての受診行動に関するアンケート〕

静岡県健康福祉部地域医療課

【調査結果概要】

① 救急医療機関への受診動向

- ・ 自分又は家族が休日・夜間に急病となり困ったことがある(過去3年間)の割合は全体で36.6%であり、困った理由として1番多いのは救急医療機関を受診すべきか自分では判断できないという理由であり、困った人の5割以上が理由に挙げている。また、どこが救急診療をしているか分からないと答えたモニターも24.3%いた。
- ・ 困ったことのある人の状況を年代別・男女別に見ると、20代～30代の女性が特に困った経験があることが分かる。これは、自身でなく家族(特に子ども)の急病時に困っている状況が想定される。
- ・ 最近1年間の救急医療機関の受診経験は、全体で14.0%であり、年代別・男女別にみると、20代～30代の男性と10代～20代の女性の受診率が高い傾向にあった。
- ・ 子どもの受診経験は、全体で41.1%と大人より高く、1歳～4歳までの子どもの受診率が68.2%と特に高い。また、子どもの年齢が高くなるにつれ、子どもの数(子育て経験)が多いほど受診率は下がる傾向にある。
- ・ 大人の救急医療機関を受診した理由の半数以上は明らかに緊急性が高い理由か痛み等が辛いことによる受診であるが、必ずしも救急医療機関の受診の必要がない理由(翌日まで待つには不安だったから、翌日が医療機関の休診日だったから等)だけでの受診数も10件あり、全体の17.2%を占めている。
- ・ 子どもの救急医療機関を受診した理由でもっとも多かったのが、自分たちの判断で翌朝まで様子を見たら、重症になるかもしれないからという理由であり、半数の親が子どもの急病時に不安を感じていることが分かった。必ずしも救急医療機関の受診の必要がない理由(自分たちの判断で翌朝まで様子を見たら、重症になるかもしれないから、翌日が医療機関の休診日だったから等)だけでの受診数も14件あり、全体の20.9%を占めていて、大人より高い傾向となっている。
- ・ 子どもの救急医療機関の受診に関していえば、通常の診療時間に受診させると仕事を休まなければならないから、夜間は医療機関が空いていると思ったからという明らかにコンビニ受診と思われる件数は全体で1件(1.5%)に留まっている。
- ・ 子どもを救急医療機関に受診させて良かった点は、安心することができたという理由が70%であり、子どもの症状を医師に診察してもらい、大丈夫だといってもらうことで親が安心しており、必ずしも救急医療機関の受診の必要がないものも

大多数含まれていると想定される。

## ② 救急医療機関を探す手段

- ・ 救急医療機関を探す手段としてモニターの大半は市町の広報誌もしくはインターネット検索を挙げている。
- ・ 年代別では、20代～40代のインターネット検索率が高いが、医療ネットしずおかの認知度は全体で21.4%と低調である。60代以降はインターネット検索率が下がっており、その代替手段として電話で探す手段(救急医療情報センターもしくは119番)が一定割合を占めている。

## ③ 静岡こども救急電話相談について

- ・ 静岡こども救急電話相談の認知度は全体では17.6%であるが、子育て中の女性に関しては41.3%と高くなっている。
- ・ 静岡こども救急電話相談をどこで(どのように)知ったかという設問に対しては、子育て中の女性に関しては病院・診療所のポスターが45.5%と認知度UPに貢献している。また、県民だよりについても全体で38.4%と高いが、モニターが県の行政に関心を示しているため、5月にカラー特集を組んだ印象が強いと思われる。
- ・ 静岡こども救急電話相談を利用したことのあるモニターの大半は今後もぜひ利用したいもしくは今後も利用するかもしれないと回答しており、もう利用したくないと回答した1人の理由は、ガイダンスに慌てたものであり、実際に相談は受けたいなかったものである。

ホーム

くらし

健康・福祉

教育・文化

産業・雇用

交流・まちづくり

県政情報

サイト内検索 キーワード

検索

詳細検索

検索の仕方

組織(部署)から探す

ホーム → 広報課 → 県政インターネットモニターアンケート → インターネットモニターアンケート

平成22年4月1日 更新

→ 平成22年度のアンケート集計結果 → 第4回県政インターネットモニターアンケート集計結果

## 第4回 県政インターネットモニターアンケート

救急医療についての受診行動に関する住民の意識に関するアンケート及び地域福祉に関するアンケート

### 集計結果

#### 【救急医療についての受診行動に関する住民の意識に関するアンケート】(Q1～Q9)

県では、県民の皆様が24時間安心して必要な救急医療が受けられる医療体制づくりを進めており、救急医療情報の提供のあり方についての検討を行っています。

また、一方、救急医療の場では、医師不足等により、救急医療機関や救急医療に携わる医師の負担が大きくなっており、救急医療を守るため、県民の方々にこのような医療の現状をご理解いただき適切な受診を心がけていただくことが必要となっています。

そのため、県民の皆様から救急医療に対する率直なご意見をお伺いいたします。

#### 【地域福祉に関するアンケート】(Q10～Q14)

私たちの地域には、一人暮らしで話し相手のいない高齢者、障害があり生活の自立や社会参加のために支援を必要とする人、子育てや家族の介護で悩んでいる人、また毎日のゴミ出しや電球の交換ができなくて困っている人など、自立した生活を送るために、何らかの手助けや支えを必要としている人がいます。

少子高齢化がますます進み、家庭や地域における相互扶助機能の弱体化が懸念される中、身近な日々の暮らしの場である地域社会において、さまざまな生活課題に地域全体で取り組むことが必要となっています。

子どもからお年寄りまで、障害の有無に関係なく、地域に住む人が支援を必要としていたら、その人らしい生活が継続できるように、その人をみんなで支えていく、そんな地域社会をめざしているのが地域福祉です。

市町では、地域福祉を推進するため、「地域福祉計画」を策定しております。この計画は、障害の有無や年齢に関係なく、誰もが住み慣れた地域で安心して生きがいを持って暮らせる地域づくりを推進するための具体的な方策を明らかにし、住民一人ひとり、自治会やボランティア、NPO、各種団体、事業者、行政などが協働して取り組もうとしているものです。

県では「地域福祉支援計画」を策定し、広域的な観点から市町を支援しておりますが、計画の改定にあたり、今回皆様に意識調査を行い、その結果を今後の支援のあり方や施策の参考とさせていただきます。

ご協力をお願いします。

・「その他」を選んだ場合には、内容を具体的に記載してください。(80字以内)

・アンケート回答途中での保存や送信はできませんので、あらかじめご承知ください。

回答者数:415人(回答率:83%)			
	カテゴリ一名	回答者数	%
性別	男性	221	53.3
	女性	194	46.7
年代	10代	6	1.4
	20代	46	11.1
	30代	85	20.5
	40代	89	21.4
	50代	81	19.5
	60代	80	19.3

住所	70代	24	5.8
	80代	4	1
	東部	127	30.6
	中部	143	34.5
	西部	141	34
職業	県外	4	1
	自営業	36	8.7
	会社員	176	42.4
	公務員	5	1.2
	主婦・主夫	92	22.2
	学生	11	2.7
	無職	67	16.1
その他	28	6.7	

※集計結果は人数(人)及び百分率(%)で示しています。百分率(%)については小数点以下第二位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。  
また、SQには無回答者は含まれていません。

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【救急医療についての受診行動に関する住民の意識に関するアンケート】(Q1～Q9)

※Q1～Q9における「救急医療機関」とは、通常の医療機関が診療を行っていない夜間や休日(土日祝日、年末年始等)に、外来診療を受け付けている医療機関のことをいいます。

<救急医療機関への受診動向について>

Q1 あなたは、最近2～3年の間に、あなた又は同居するご家族が、夜間又は休日(土日祝日、年末年始等)に急病になり、困ったことがありますか。

【1】	1 ある	(152人,36.6%)
【2】	2 ない	(263人,63.4%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ1】 Q1で「1 ある」とお答えになった方に伺います。困った理由は何ですか。(いくつでも可)

【1】	1 すぐ診てもらわなければならないか、大丈夫なのか自分ではわからず、相談できる人もいなかった	(86人,56.6%)
【2】	2 どこが救急診療をしているかわからなかった	(37人,24.3%)
【3】	3 救急医療機関までの道(行き方)がわからなかった	(16人,10.5%)
【4】	4 救急医療機関を受診するための交通手段がなかった	(5人,3.3%)
【5】	5 自分の病状にあった医療機関がわからなかった(何科を受診すればいいかわからなかった)	(23人,15.1%)
【6】	6 その他(具体的に)	(26人,17.1%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q2 最近1年間で、あなた自身が夜間又は休日(土日祝日、年末年始等)に救急医療機関を受診したことがありますか。

【1】	1 ある	(58人,14%)
【2】	2 ない	(357人,86%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ1】 Q2で「1 ある」とお答えになった方に伺います。あなたは、どのような理由で夜間又は休日(土日祝日、年末年始等)に受診しましたか。(いくつでも可)

【1】	1 明らかに緊急性が高いと思ったから	(31人,53.4%)
【2】	2 翌日まで待つには不安だったから	(21人,36.2%)
【3】	3 痛み等が辛く、症状を和らげる薬が欲しかったから	(21人,36.2%)
【4】	4 病院等に電話で相談したら、すぐに受診するように勧められたから	(8人,13.8%)
【5】	5 家族に勧められたから	(10人,17.2%)
【6】	6 翌日が医療機関の休診日だったから	(7人,12.1%)
【7】	7 平日の昼間(通常の診療時間)に都合がつかなかったから	(3人,5.2%)
【8】	8 医療機関を受診すれば安心できるから	(10人,17.2%)
【9】	9 その他(具体的に)	(4人,6.9%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

※Q3～Q5は、ご家族に小さなお子様(中学生まで)がいる方に伺います。

Q3 お子様は何人いらっしゃいますか。(高校生以上のお子様の人数も含めてお答えください)

【1】	1 1人	(66人,35.3%)
【2】	2 2人	(92人,49.2%)
【3】	3 3人	(23人,12.3%)
【4】	4 4人以上	(6人,3.2%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q4 一番下のお子様はおいくつですか。

【1】	1 1歳未満	(16人,11%)
【2】	2 1歳～2歳未満	(20人,13.7%)
【3】	3 2歳～3歳未満	(12人,8.2%)
【4】	4 3歳～4歳未満	(12人,8.2%)
【5】	5 4歳～5歳未満	(8人,5.5%)
【6】	6 5歳～6歳(小学校入学前)	(12人,8.2%)
【7】	7 小学生	(46人,31.5%)
【8】	8 中学生	(20人,13.7%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q5 最近1年間、あなたの中学生以下のお子様の急な病気やけがで、夜間又は休日(土日祝日、年末年始等)に救急医療機関を受診したことがありますか。

【1】	1 ある	(67人,41.1%)
【2】	2 ない	(96人,58.9%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ1】 Q5で「1 ある」とお答えになった方に伺います。夜間や休日(土日祝日、年末年始等)な

ど、通常の診療時間外に救急医療機関を受診した理由は何ですか。(いくつでも可)

【1】	1 明らかに緊急性が高いと感じられたから	(29人,43.3%)
【2】	2 自分たちの判断で翌朝まで様子を見たら、重症になるかもしれないから	(34人,50.7%)
【3】	3 子どもが長時間苦しむのはかわいそうだから	(22人,32.8%)
【4】	4 病院等に電話で相談したら、すぐに受診するように勧められたから	(13人,19.4%)
【5】	5 家族に勧められたから	(6人,9%)
【6】	6 翌日が医療機関の休診日だったから	(7人,10.4%)
【7】	7 通常の診療時間に受診させると、自分が仕事を休んだりしなければならないから	(0人,0%)
【8】	8 夜間は医療機関がすいていると思ったから	(1人,1.5%)
【9】	9 その他(具体的に)	(5人,7.5%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ2】 Q5で「1 ある」とお答えになった方に伺います。夜間や休日(土日祝日、年末年始等)など、通常の診療時間外に救急医療機関を受診して良かった点は何ですか。(いくつでも可)

【1】	1 安心することができた	(47人,70.1%)
【2】	2 重症にならずに済んだ	(30人,44.8%)
【3】	3 薬をもらえて子どもが落ち着いた	(24人,35.8%)
【4】	4 特にない	(2人,3%)
【5】	5 その他(具体的に)	(3人,4.5%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ3】 Q5で「1 ある」とお答えになった方に伺います。夜間や休日(土日祝日、年末年始等)など、通常の診療時間外に救急医療機関を受診して困った点は何ですか。(いくつでも可)

【1】	1 待ち時間が長かった	(28人,41.8%)
【2】	2 対応した医師が小児科医でなかったため不安があった	(13人,19.4%)
【3】	3 近所でないため、行き帰りが大変だった	(15人,22.4%)
【4】	4 特にない	(23人,34.3%)
【5】	5 その他(具体的に)	(4人,6%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

<当番医情報の提供について>

Q6 あなたは、夜間や休日(土日祝日、年末年始等)に受診できる救急医療機関をどのような手段でお探しになりますか。(いくつでも可)

【1】	1 市町の広報紙で調べる	(211人,50.8%)
【2】	2 インターネットで調べる	(193人,46.5%)
【3】	3 かかりつけの医療機関に電話する	(46人,11.1%)
【4】	4 救急医療情報センター(0800-222-1199)に電話する	(44人,10.6%)
【5】	5 119番に電話する	(47人,11.3%)
【6】	6 新聞で調べる	(139人,33.5%)
【7】	7 その他(具体的に)	(19人,4.6%)